



ブックロウの Pick Up コーナー!!

図書館のホームページ
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>
から Check it out !!

オープンライブラリーを開催しました!

8月 8日(水)・9日(木)

大学のオープンキャンパスに合わせて
「オープンライブラリー」を開催し約260
名の方にご来館いただきました。



これだけは読んでおきたい!!
各学部の先生からのオススメ本

READING LIST



人文学部 川口 敦子先生



ルイス・フロイス 著
『ヨーロッパ文化と
日本文化』

岩波書店
[所在] 図・開架・PB
[請求記号] 210.48/F 48

「(A)では夫が前、妻が後になって歩く。(B)では夫が後、妻が前を歩く。」本書によれば、A=ヨーロッパ、B=日本。このような「目から鱗」の記述がいくつもある。16世紀に来日した宣教師ルイス・フロイスによる日欧の文化比較で、その観察は衣食住から宗教、作法、芸能まで幅広い。「外国人の視点」「16世紀」というフィルターを通して見た日本の姿はとても新鮮に映る。

教育学部 下村 勉先生



梅棹忠夫 著
『知的生産の技術』

岩波書店
[所在] 図・開架・PB
[請求記号] 002/U 73

「学校はおしえすぎる」、しかし、「やりかたはおしえない」の見出しで始まるこの本は、「手帳」「カード」「読書」「文章」などの「知的生産」の方法に焦点を当てている。パソコンやインターネットがない時代に書かれたもの(初版は1969年)であるが、その考え方は今でも十分通用する。私が大学院生の頃に感銘を受けた本であるが、今でも読み返すたびに著者の先見力・洞察力に驚かされる。

医学部 成田 正明先生

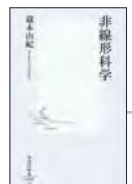


坂井建雄 著
『献体』

技術評論社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 491.1/ Sa 29

医学部では人体解剖学実習があるが、用いられるご遺体は「献体」による。この「献体」という概念、すこしずつ浸透してきてはいるものの、まだまだ十分に理解されているとはいえない。「献体」とはなにか、献体した場合、自分の体はその後どうなるのかが、一般にも分かりやすく書かれている。医学生はもちろん、一般学生にも是非知っておいてほしい内容の1冊。

工学部 辻本 公一先生



蔵本由紀 著
『非線形科学』

集英社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 421.4/Ku 53

カオス、エントロピー、フラクタル、よく耳にする言葉ですが、私たちはどれほどに理解しているでしょうか。

従来の学問とは異なる視点を持つ非線形科学の第一人者である著者が、身近なさまざまな素材をもとにこれらの内容について丁寧に解説されています。入門書として少々難解なところもありますがこれからの学問を担う理工系の学生には、視野を広める上でぜひともおすすめの一冊です。

生物資源学部 平塚 伸先生



石川拓治 著
『奇跡のリンゴ』

幻冬舎
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 625.21 / I 76

我々が日頃食べている果物は、野生種から選抜して改良に改良を加えてできた、いわば芸術品である。しかし、選抜・改良の過程で耐病虫害性が失われ、農薬散布が必須である。本書は、果樹のなかでも最も病虫害に弱い、リンゴの無農薬栽培にチャレンジした話である。専門的な立場から見ると、一寸無謀で「？」のつく箇所も多いが、現在の我々の生活についていろいろ考えさせられる。

共通教育 山田 雄司先生



東アジア怪異学会編
『怪異学入門』

岩田書院
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 388/Ka 21

東アジア怪異学会が創立されて10年。本会に所属する会員によって怪異に関する研究が著しく進展しました。日本においては、フシギなコトである怪異は神意の現れすなわち予兆としてとらえられ、平安中期から室町時代までは国家の重要事項として管理されていました。怪異を通じて日本史を見たらどのように見えるのか、本書は怪異についてはじめて学ぼうとするみなさんにおすすめの書です。